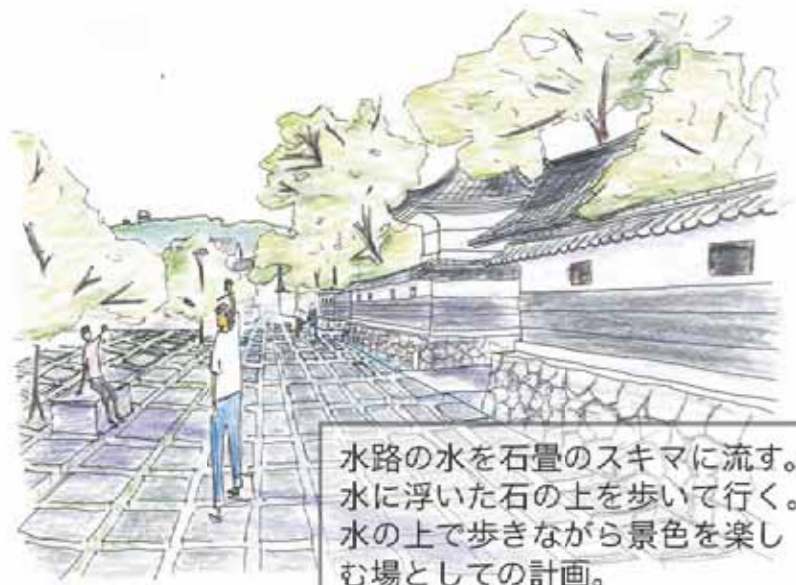


まちを歩いて見える
水との関わり

①

水の上を歩く



水路の水を石畳のスキマに流す。水に浮いた石の上を歩いて行く。水の上で歩きながら景色を楽しむ場としての計画。

②

水への映り込みと
城への眺望



お城が切り取られて見える細い路地。車が通るには少し細すぎる。そんな路地に大きく水を通してその水への映り込みを今の風景に加えて、新しい風景をつくり出す。

③

混じり合う生活と観光

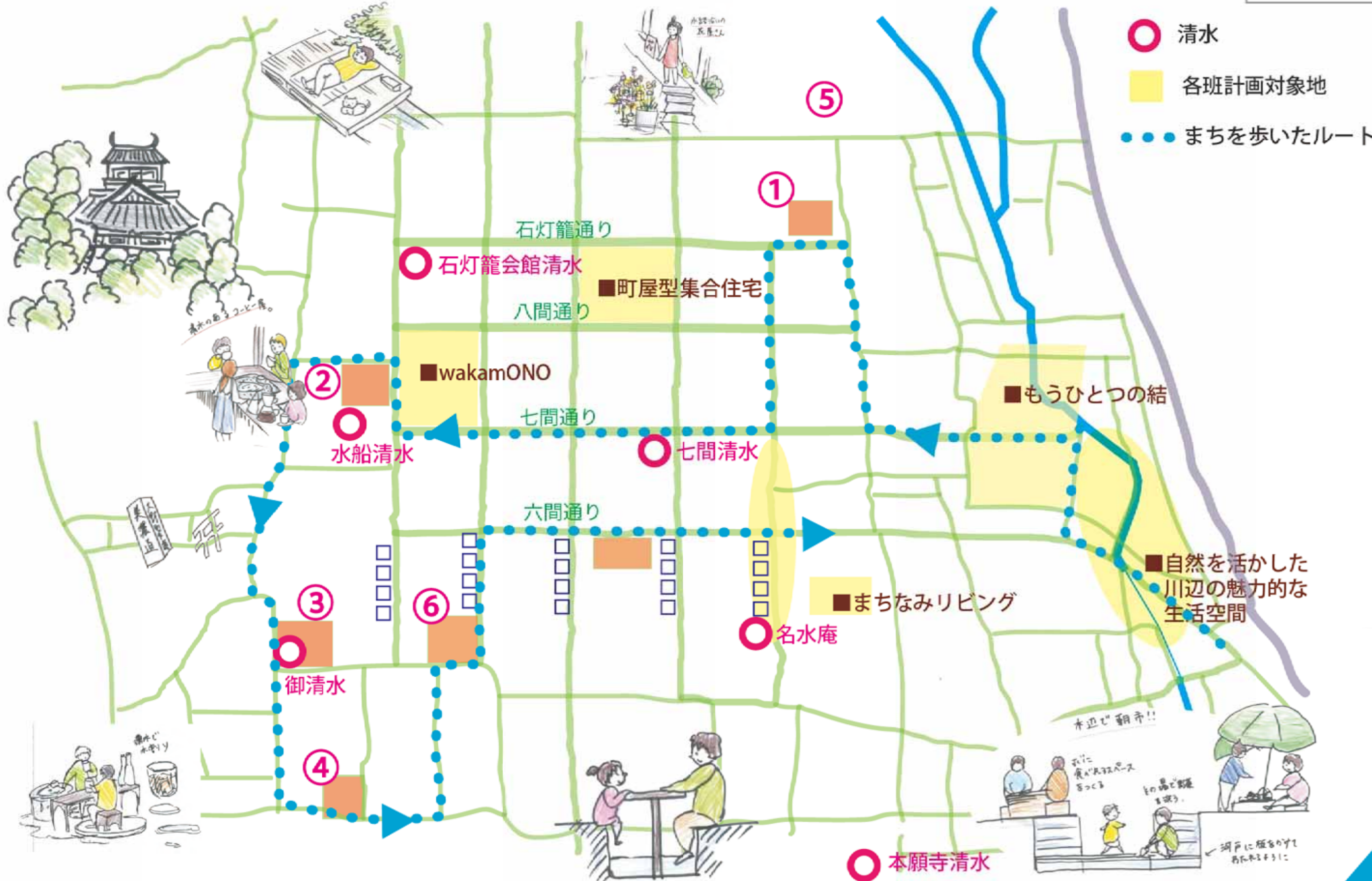


『現在』：御清水のすぐ前に住宅があるのに段差が大きい
ため関係が持ちにくい。
『計画』：河戸のようなような階段を正面に設けることで、
御清水の前の住宅を清水の高さまで引き込む。
外に出たら水の横を通ることで、行為が生まれやすくなる。
水と近いレベルお場所を広くとり、アクセスしやすくなること
で住民も近づきやすくなる。住民が使っている時に観光客
が訪れると、新しい交流が生まれるのではないかと。

④

ステップ

家の前のフタをされた水路。
そのフタの高さや大きさを変えること
で住んでいる人も周りからくる人も、
フタのスキマから水がよく見え、近づ
くことができる。



住宅の前の水路を出すことで、住宅の前
に水を隔てた空間ができる。ここをうまく
設えていくことで、おしゃべりや水を見
ながらくつろいでちょっとした場が
できる。たとえばこの水をうち水に使っ
たり、BBQをしたり、いろいろな活動が
生まれるのではないかと。

⑤

日常的な水との関わり

六間通りを歩いているとよく見る駐車場。
車の交通の多い通りなので、便利はある
が、たくさんあると目立つ。
そんな使われていない駐車場を利用して、
その持ち主や、他の人が広告を出す。
水で満たした駐車場に広告を投影する。



⑥

水盤を使った宣伝